

東海
道中
膝栗毛八編
十六上



^ 13
3286
16



門 へ 13
號 3286
卷 16

昭和十六年一月十一日
寄 厄野貴英氏 贈

本清

道中膝栗毛八編序
凡向まの十方ちうはくろの北九もな
るしとまの首られえハのあまを
ひて永名の吉加瑞ししかのちとま
柳位とまの事ハ先大江都の八玉所
長あしてはるに神のまを島津や

跡を案め以て其経の八部末世不傳して
行く影集を八代集と云ふは其の
ハ封十家盤子ハ兼合らるるもハ百乃
その坊あれを傳りハヶ月と限と成り
練琴をももハ編子玉て其を以てハ川也
思案の筆を執りて其のまに酒の微碎

子託ふむと其の示ハ迹は上知も代中揚
庭にあれむと其の迹ハ栗毛の法白橋
あつと上りの大坂著長所位
清能者其はヤウ外

文化
七子孟春
十返舎一九誌



出雲守米市之圖

人多知て回指

改市洋谷管

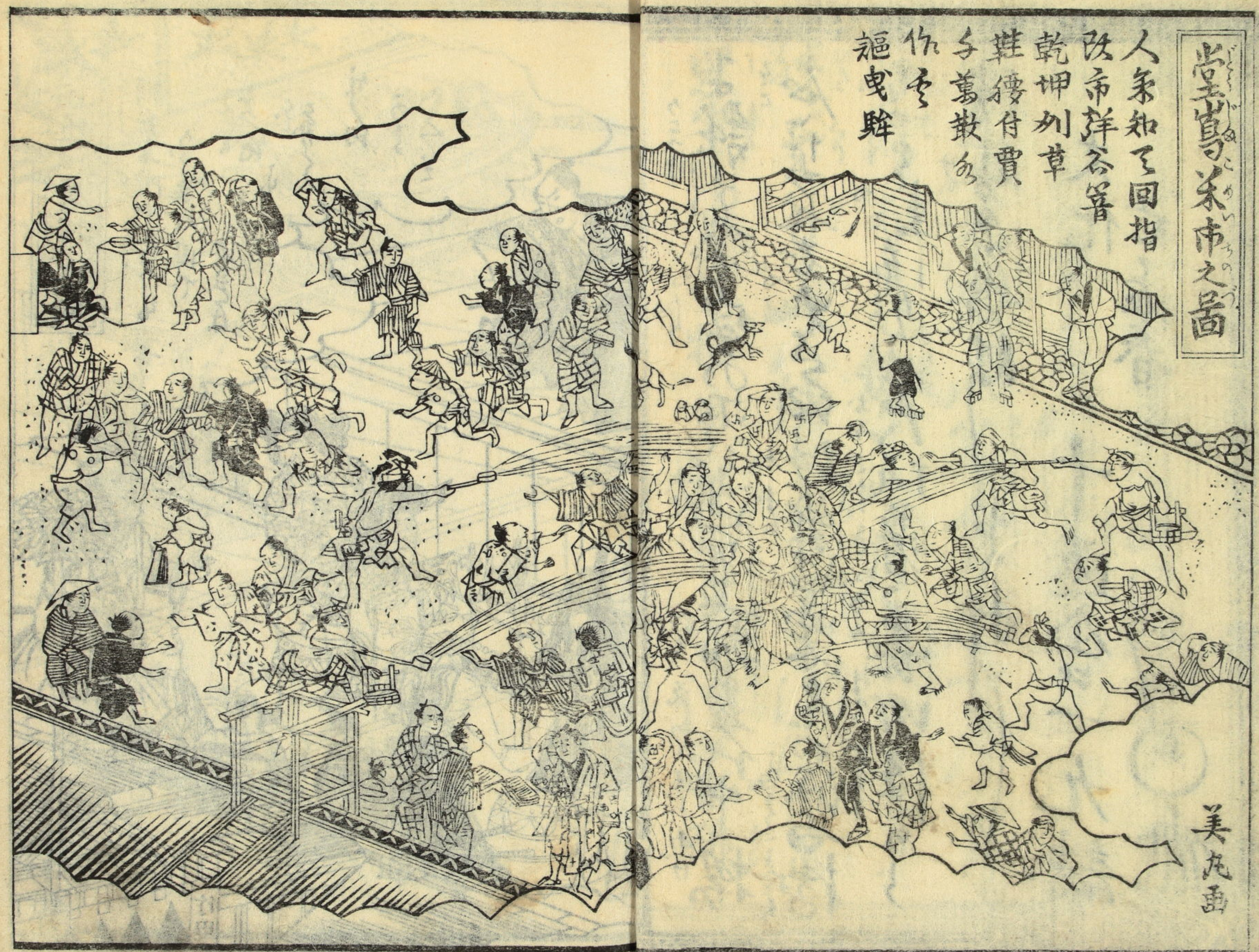
乾押刈草

鞋襷付賈

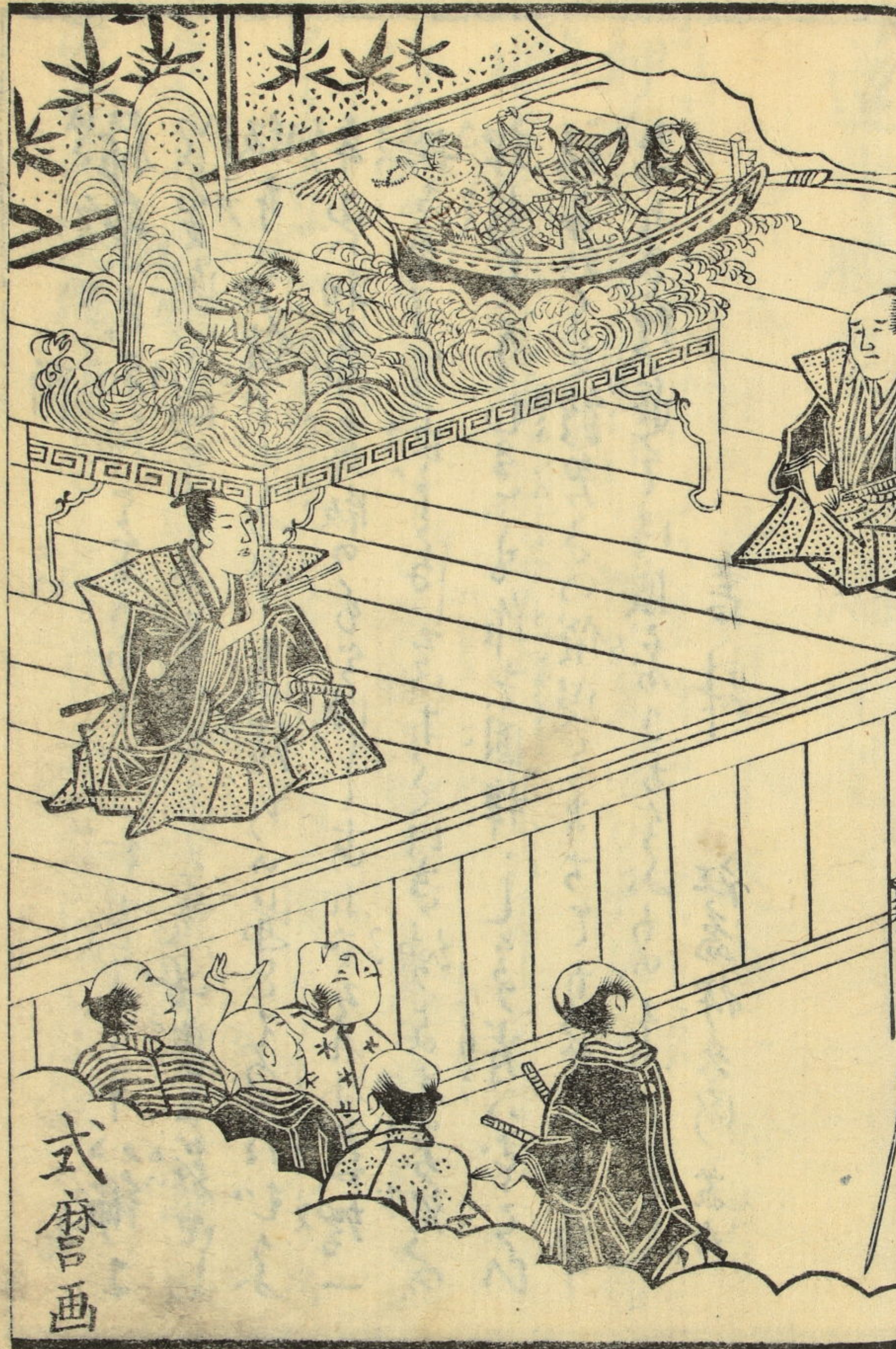
与藁散多

作多

繩曳駢



美丸画



式麻呂画



竹田江唐標之圖

竹田江唐標之圖

竹田江唐標之圖

竹田江唐標之圖

竹田江唐標之圖

竹田江唐標之圖

竹田江唐標之圖

竹田江唐標之圖

竹田江唐標之圖

竹田

竹田

附言

篠原本毛初編を重なるものより行きて今年八編に
 つらぎ漸く満尾し一平如直さ後半葉は蘇世し
 版本は彼れ出たれその流りの葉をそらたむふ
 年次和帝再版のもをけしあれをそれふ版増一
 冊をのりて二巻にほしそむく人ひき續支本も流りの
 作れりともむまも作去國釋しそり肖いむらひ
 移のめくも流り子の催供をもちてりめんとる車
 ありを修造してほ板ありあむりのあらしし

書肆

江島伊左衛門 兼白

道中膝栗毛八編 上巻

東都 十返舎一九著

押寄箱波の津ハ海内秀田の大坂舎あしり緒
 國の賈船本津安治の西川ふみよしそむくべ
 けし編てとふもろくの荷物を彌島ごしそむの比り
 ちうしし。蘇文花の法長渡川は梅さししてさく、
 まふほひ細半の刺外不辨ともふし。其ハ箱波
 秋地の納屋よそとく里二日茶やふねのきりし。秋ハ

大阪八軒家

どろりたる岸
まゝに浦

よきも
よきも

柔
玉を川

大
江の

浦
の

う
せま

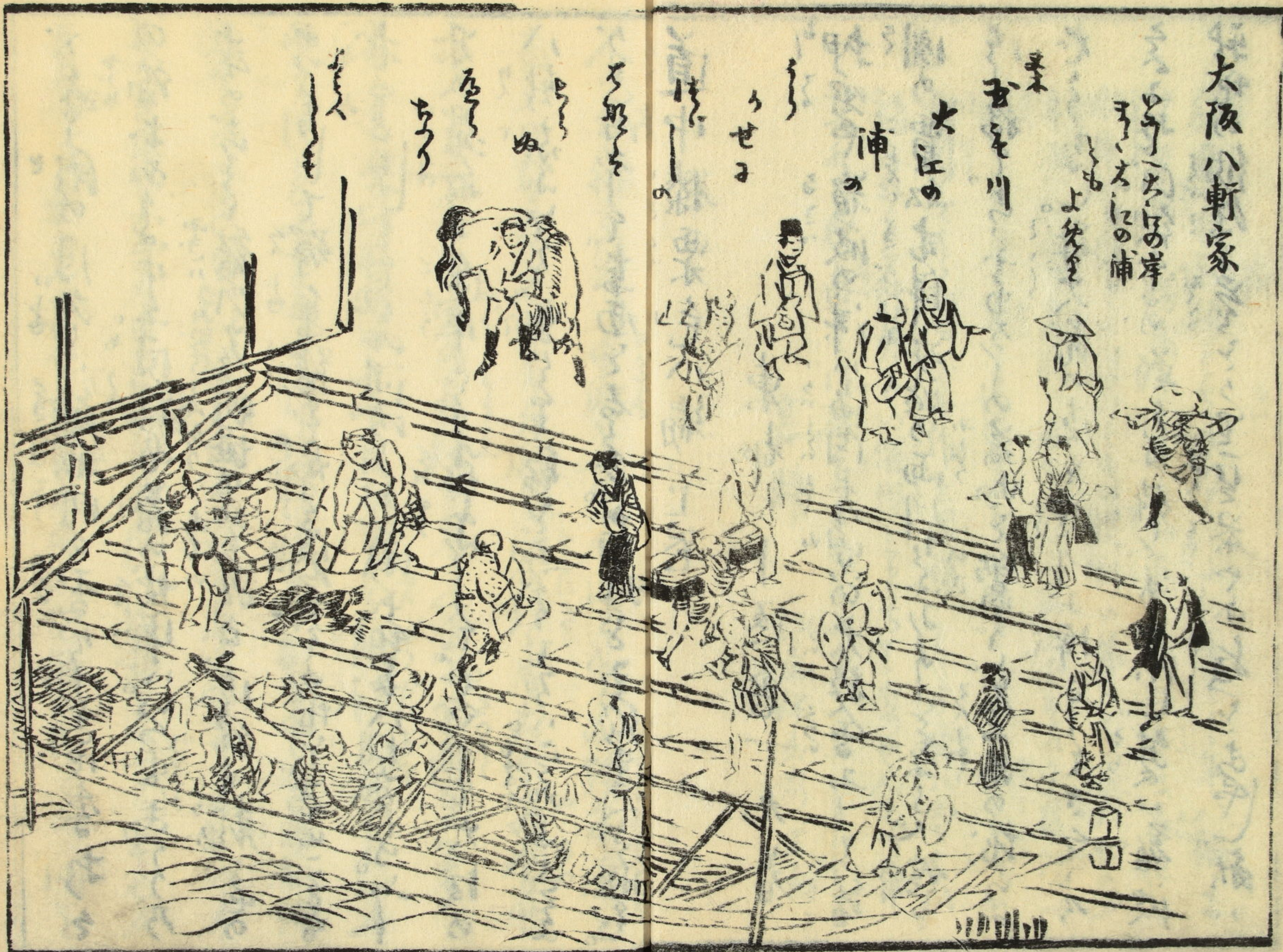
は
し
の

と
取
ま

ぬ

ち
う
う

ま
ま



畠山さまへ。コレく估をばどめ。ちよとんせト びんて

あんなの あるとがが。あんなのあむくあつまゆりて

あや 田にうらうら。こまてわらうひて人の

アヤ一そくぞり。あつたるあつたつた。あつた

アヤ一そくぞり。あつたるあつたつた。あつた

アヤ一そくぞり。あつたるあつたつた。あつた

アヤ一そくぞり。あつたるあつたつた。あつた

アヤ一そくぞり。あつたるあつたつた。あつた

アヤ一そくぞり。あつたるあつたつた。あつた

アヤ一そくぞり。あつたるあつたつた。あつた

アヤ一そくぞり。あつたるあつたつた。あつた

アヤ一そくぞり。あつたるあつたつた。あつた

アヤ一そくぞり。あつたるあつたつた。あつた

アヤ一そくぞり。あつたるあつたつた。あつた

アヤ一そくぞり。あつたるあつたつた。あつた

アヤ一そくぞり。あつたるあつたつた。あつた

アヤ一そくぞり。あつたるあつたつた。あつた

アヤ一そくぞり。あつたるあつたつた。あつた

アヤ一そくぞり。あつたるあつたつた。あつた

高津社

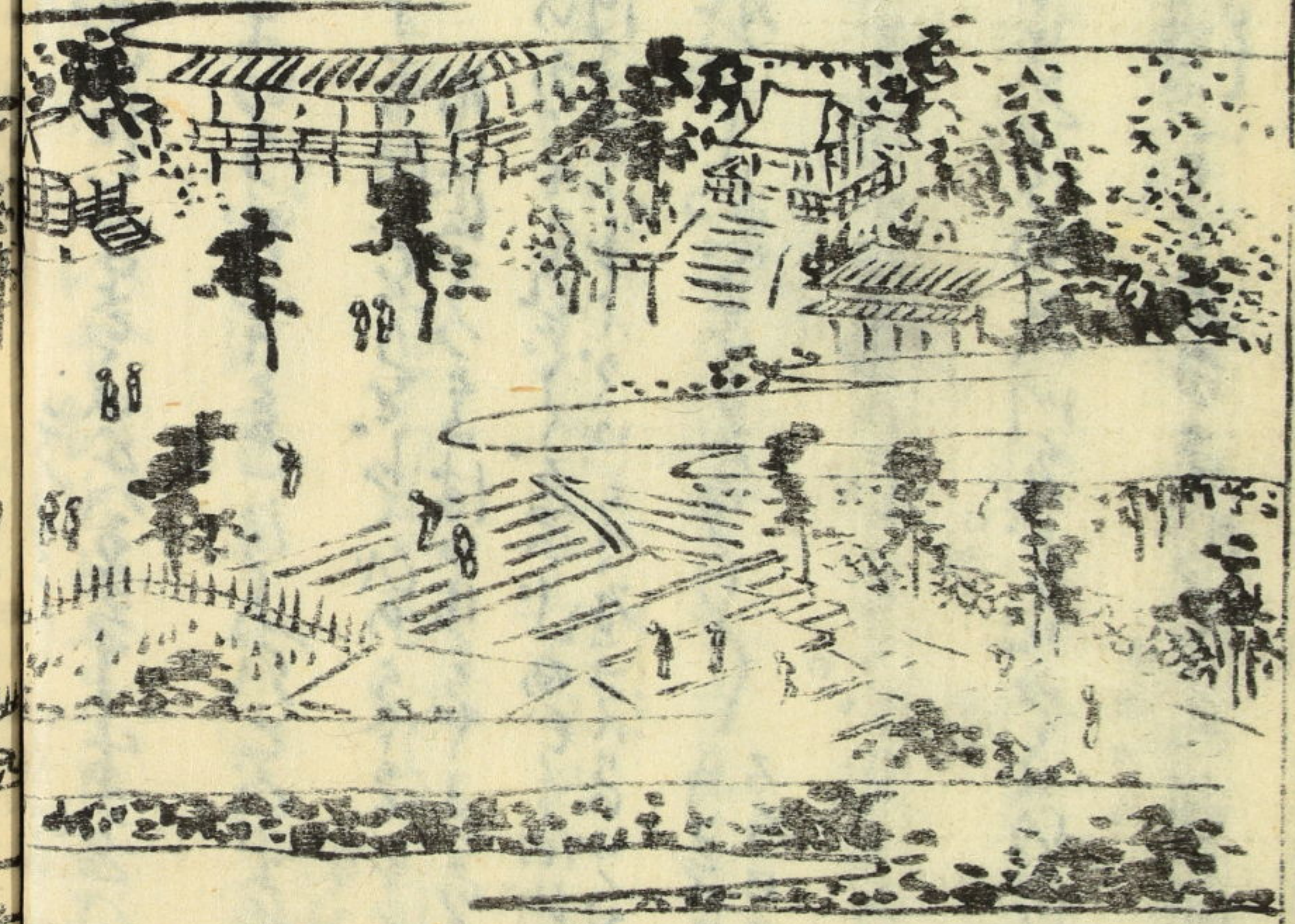
長久寺

子守

あし

目

感和亭
鬼武



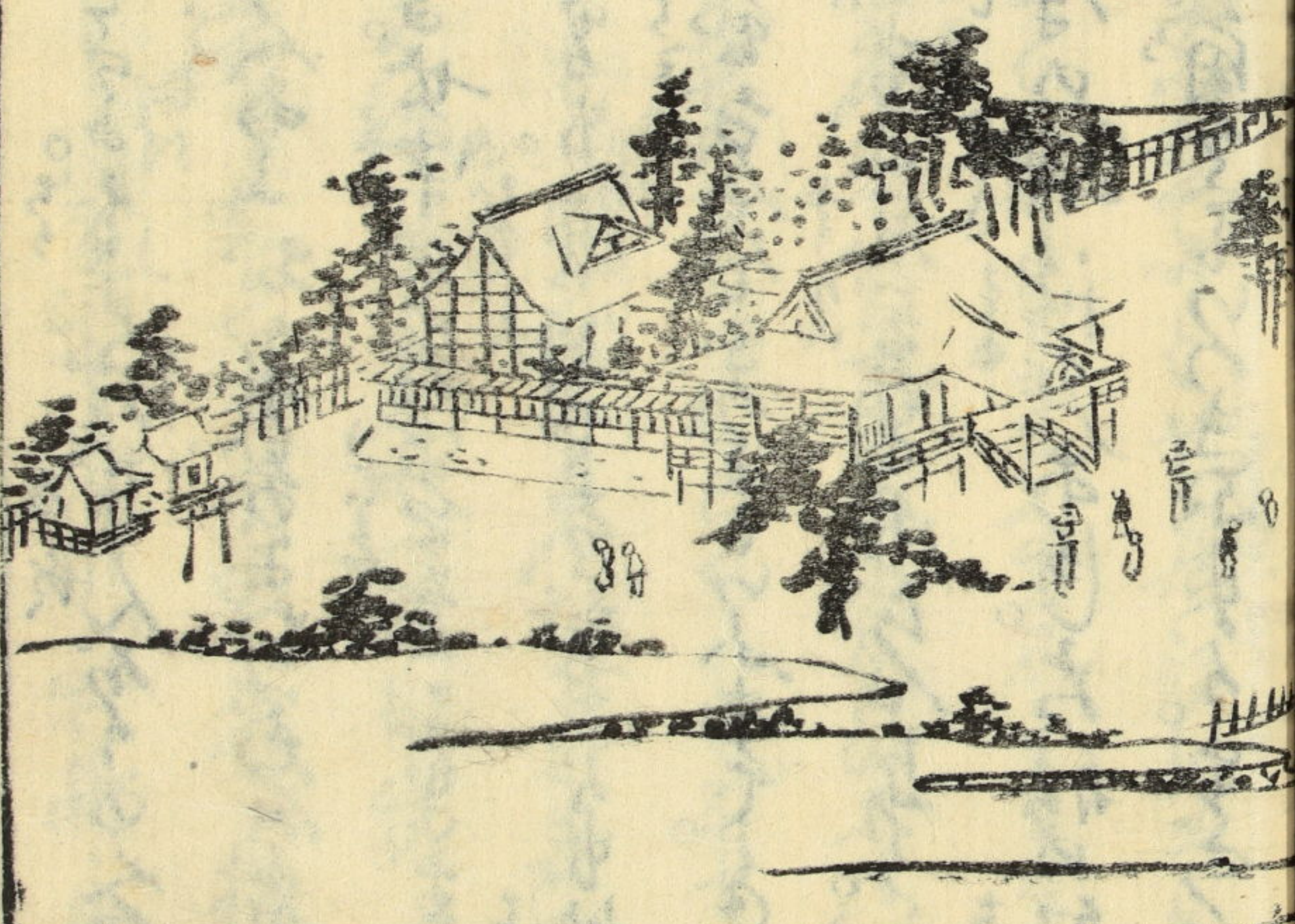
繪馬本堂

坊

後

天

墨亭
月磨



まろくろ

まろくろはなつてまろくろけんをき

おほよくと馬をりまら

まろくろは馬と心あり市の側でまろくろをゆふま

青物の市より西へておほよくと馬をりまら

まろくろの賣買あまろくろ商人

尾ひれのまろくろ市のりまら

まろくろは馬の心あり市の側でまろくろをゆふま

まろくろは馬の心あり市の側でまろくろをゆふま

まろくろは馬の心あり市の側でまろくろをゆふま

まろくろは馬の心あり市の側でまろくろをゆふま

まろくろは馬の心あり市の側でまろくろをゆふま

まろくろは馬の心あり市の側でまろくろをゆふま

まろくろは馬の心あり市の側でまろくろをゆふま

まろくろは馬の心あり市の側でまろくろをゆふま

まろくろは馬の心あり市の側でまろくろをゆふま

まろくろは馬の心あり市の側でまろくろをゆふま

まろくろは馬の心あり市の側でまろくろをゆふま

春秋亭
仲任

あまの
あまの

あまの

あまの

あまの

あまの
あまの

あまの

あまの
あまの
あまの

あまの
あまの

あまの
あまの

あまの

あまの

あまの

